

《その他》

第18回アジア競技大会及びAsian University Sports Federation (AUSF) Football Cup視察

大平 正軌

The 18th Asian Games and Asian University Sports Federation (AUSF) Football Cup Inspection Report

Masaki OHIRA

キーワード：アジアサッカー，東京オリンピック，ユニバーシアード大会

Key Words:

本稿では，2018年に開催された第18回アジア競技大会の視察と，Asian University Sports Federation (AUSF) Football Cupの視察について報告する。

第18回アジア競技大会（ジャカルタ・バレンバン）

第18回アジア競技大会は，2018年8月18日～9月2日の期間，インドネシアのジャカルタとバレンバンで開催された。サッカー男子日本代表として，大学サッカー連盟所属の選手が5名（GK 2名，オフENSE 3名）選出されていた。大学生が参加する大会としては，ユニバーシアードがあるが，ユニバーシアードの種目から，2019年のナポリ大会を最後に，サッカー競技が除外されることが決まったため，ユニバーシアードに代わる大会を探す過程で，個人的に

アジア大会をターゲットの一つと考えていたため，日本代表の決勝進出が決まった時点で急遽，応援と視察を兼ねて現地に向かった。この視察は，大学サッカー連盟所属選手の様子を現地で見るだけでなく，アジア競技大会の男子サッカーのレベルなどを確認する良い機会となった。

アジア競技大会は，セキュリティの厳しさ，スタジアムの大きさなどからみて，ユニバーシアード以上の大会規模だと感じた。男子サッカー決勝と3位－4位決定戦を視察したが，東京五輪に向けて21歳以下代表選手が出場していた日本に対して，いずれのチームもオーバーエイジを含む23歳以下の選手で構成されていた。決勝の相手であった韓国チームには，A代表にも選出されている選手が起用されており，競技場は韓国サポーターばかりで完全アウェーとなった。大会を視察してみて，全日本大学選抜が出場することができれば，素晴らしい経験を

積むことができる大会であると感じた。

選出された5名の大学サッカー連盟所属選手のうち、2名に関しては堂々とプレーをしていてプロ以上の活躍だった。アジア競技大会での経験が、その後の関東大学リーグでも発揮されていたと感じる。その他の選手は、出場機会が少なかったり、大会期間中に体調を崩して活躍できずに悔しい思いをしたようだ。体調を崩した選手はいずれも意識が高く、不注意からの体調不良ではないが、非日常で長い遠征での離脱はチームに迷惑をかけてしまう。大学サッカー連盟所属の選手についてはJFAのスタッフから遠征中の体重減少や身体の使い方についての指摘を受けているので、日頃からもう少し意識を変えていってほしい。

日本代表の成績は、全7試合で5勝2敗（グループリーグ2勝1敗）、10得点、5失点であった。5名選手のアジア競技大会での記録は、6試合出場が3名、うち1名は6試合先発出場、1名は5試合先発出場であった。オフェンス3名の得点は、それぞれ6試合で3得点、2試合で1得点、6試合で1得点であった。GK2名は、それぞれ、6試合4失点、2試合1失点であった。

AUSF (Asian University Sports Federation) Football Cup (泉州市)

前述のように、2019年のユニバーシアードナポリ大会をもってユニバーシアード競技大会からサッカー競技が外れる。それに伴い、サッカー競技のみの大会であるFISU (Fédération internationale du sport universitaire: 国際大学スポーツ連盟) Football Cupが新設される。FISU Football Cupは、国や地域の代表チーム

ではなく、チーム単位で出場する大会であり、2019年の秋頃に開催される予定である。そのアジア予選となるAUSF Football Cupが2018年10月30日から11月10日まで中国福建省泉州市で開催された。2019年開催のFISU Football Cupがこの地で開催予定ということもあり、JOCと大会実行委員会の配慮により決勝を視察した。

決勝は韓国のMyongi UniversityとタイのBangkok Thonburi Universityとの対戦となった。2-1でMyongi Universityがリードしていたが、ロスタイムのCKでGKがヘディングシュートを決めて同点に追いつき、PK戦の末タイのBangkok Thonburi Universityが優勝した。

決勝のレベルは日本のトップレベルの大学に比べると落ちるが、決して低くはなかった。決勝は地元の中国の大学が出場しないにも関わらず1万人以上の観客が入っており、ホスト国として中国の大会への本気度を強く感じた。

決勝戦終了後、韓国のMyongi Universityの関係者に話をする機会があり、大会のレベルについて尋ねたところ、出場16チーム中、半分はレベルが高く、半分はレベルが落ちるとのことだった。宿泊施設については当初五つ星のホテルと伝えられていたが、実際は大学の宿泊施設で食事等あまり良いとは言えず、保護者がもってきていたキムチなどで乗り越えられたと言っていた。最後に主催者であるAUSFの会長にお会いしたところ、次回大会にはぜひとも日本のチームに参加してほしいとのことだった。

大会の詳細は以下の通りである。

○大会詳細

名称: KELME 2018 AUSF Football Cup

主催: AUSF (Asian University Sports Federation)

協賛: KELME, JINJIANG CULTURE & TOURISM,

WINNER AMBASSADOR HOTEL
場所：中国福建省泉州市
参加：16チーム
方式：4チーム×4のグループリーグで上位2
チームが決勝トーナメントへ進出
経費：渡航費のみ参加国負担（FISU Football

Cupは宿泊費、渡航費共にホスト国が負担）
結果：優勝 Bangkok Thonburi University（タイ）
準優勝 Myongi University（韓国）
※優勝及び準優勝チームは2019年のFISU Football
Cupに出場する。



写真1 AUSF Football Cup泉州市競技場



写真2 AUSF Football Cup競技場入口



写真3 AUSF Football Cup 表彰式の準備